

# 都市再生整備計画(第3回変更)

はらみず  
原水地区

くまもと 熊本県 きくち 菊池郡 きくよう 菊陽町

平成21年12月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	菊陽町	地区名	原水地区	面積	180 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

### 目標

本町総合計画の未来像「人・緑・元気・輝く 生活創造都市」を目指し、豊かな緑の中で日々の暮らしがいきいきと輝く質の高い地域が創造されることを目的とする。

目標1: 公営住宅の整備により緑豊かな居住環境が整えられ、人・緑が輝く

目標2: 小学校への安全な通学路が確保され、人・元気が輝く

目標3: 地域のコミュニティ活動が活発になり、人・緑・元気が輝く

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

菊陽町は、雄大な阿蘇外輪山を東に望み、熊本市とは南西部に隣接する熊本都市圏のなかに位置する。町内には熊本空港、セミコンテックパークなど交通と産業の拠点性を有する施設の立地が多く、活力に溢れる町である。当地区は、町を横断し熊本市方面へとつながる県道337号線並びにJR豊肥線の北側の地域であり、通勤時間帯の自動車交通の集中、コミュニティ施設の未整備、公営住宅の老朽化などに課題がある。

#### 課題

ファミリー向けやバリアフリーの公営住宅の不足、入居者や地域の人がふれあう場としての公園緑地の未整備、また通学路としての安全性に欠けており道路の整備、屋内の地域住民のコミュニティの場がない。

- ①昭和40年に建設された町営原水団地は老朽化しており、建て替えが必要である。
- ②通勤通学の時間帯には自動車交通と歩行児童が混在し、交通事故の危険性が高い。
- ③コミュニティ施設が未整備なので、地域のまちづくり活動が一体的に進まない。

#### 将来ビジョン(中長期)

緑豊かな町で、すべての人が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、生活環境の整備、そして未来を背負う子供たちが、個性を伸ばしいきいきと活動できる場を提供し世代間の交流を目標とします。

- ①高齢者、障害者などすべての人が、安心して暮らせる緑豊かな公営住宅を整備する。
- ②交通と防犯の面から安全な通学路を確保し、小学校と駅周辺とを結びつける。
- ③ふれあいの森公園をより活性化するとともに地域のコミュニティ活動の拠点となるようにコミュニティセンターを整備する。

### 目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
快適な住環境の整備率	%	最低居住水準を満足する住宅	65	H16	100	H21
安全な通学路の整備率	%	既存通学路の安全確保による歩道整備	0	H16	69	H21
安全な通学路の整備率	%	新設通学路の安全確保による歩道整備	0	H16	100	H21
地域活動によるイベントの開催	回/年	交流活動(地域イベント)の開催回数	0	H16	5	H21

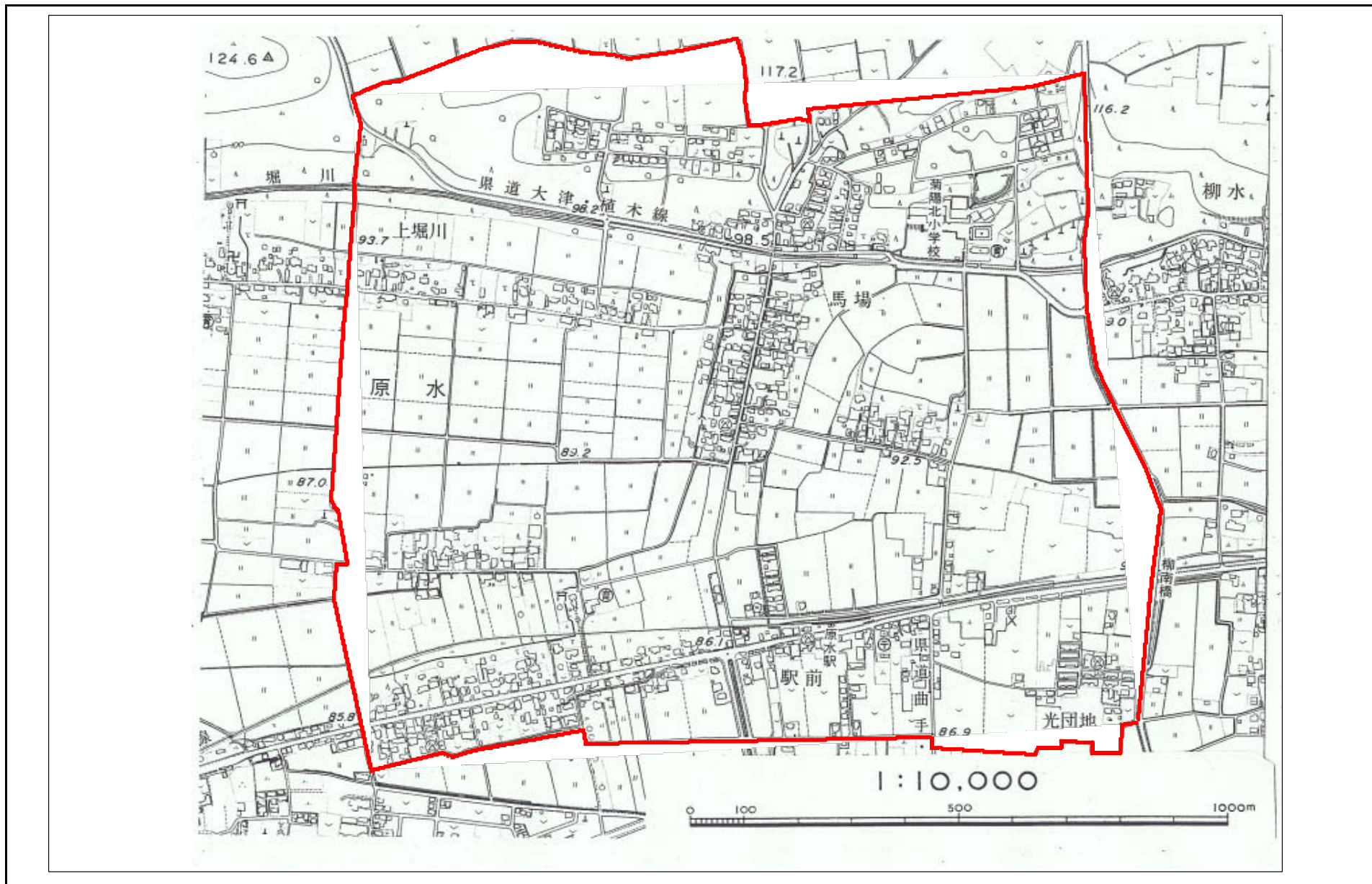
## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1(快適な住環境の整備・居住水準の向上) ・公営住宅の建設(住宅30戸)	公営住宅等整備(基幹事業)
整備方針2(通学路の改善) ・原水団地線の道路改良(L=460m, W=7.5m) ・原水駅線の道路改良(L=390m, W=12.0m)	道路(基幹事業)
整備方針3(世代間交流・地域の連帯・生涯学習・コミュニティー活動の推進) ・コミュニティーセンター(ふれあいの森研修センター)の整備(A=690㎡)	高次都市施設(基幹事業)
その他 ・住宅の整備により、高齢者や障害者が安心して暮らせる住環境を推進する。 ・ふれあいの森公園を最大限に活用し、子供たちが自然にふれあいながら遊び・学ぶ施設、また地域交流の場としてイベントの開催の推進を図る。 ・他事業[地方道路整備臨時交付金(交通安全施設等事業)]により、北小学校原水駅線の道路拡幅(L=630m, W=9.5m)に取り組み通学路の早期整備完了を図る。	



都市再生整備計画の区域

原水地区(熊本県菊陽町)	面積	180 ha	区域	原水地区
--------------	----	--------	----	------



## 原水地区(熊本県菊陽町) 整備方針概要図

目標	本町総合計画の未来像「人・緑・元気・輝く生活創造都市」を目指し、豊かな緑の中で日々の暮らしがいきいきと輝く質の高い地域が創造されることを目的とする。	代表的な指標	最低居住水準を満足する公営住宅の整備 ( % )	65%	(16年度) →	100%	(21年度)
			既存通学路の安全確保による歩道整備 ( % )	0%	(16年度) →	69%	(21年度)
			交流活動(地域イベント)の開催回数 (回/年)	0回	(16年度) →	5回	(21年度)

